

# 住民協ひろば

## ・・・久木小学校区住民自治協議会の目指すもの・・・

「久小校区住民協」が発足してから、今年で7年目を迎える。此処であらためて住民協の目指すものを考察して見る事にする。

最近の世の中の動向として、よく云われる事は、高齢化社会の進行、家族の在り様の変化、格差の拡大、環境問題への対応等、加えて自然災害の多発化、社会の不安定要因は増大している様に思える。この様な時代だからこそ多様化する様々の課題に地域の思いを共有し、問題解決に果敢に挑戦する仲間と組織が重要であると考えます。

地域の課題は行政からの施策待ちでは解決出来ず、住民と行政が一体となって多様化する地域の課題を効果的、創造的に解決する事が重要であり、先ず地域住民が正しく地域の問題を把握し、それを共有し、あるべき地域に向けて行動する事が求められる。その為には地域の住民、及び団体が相互に信頼し合える住み易い地域づくりの為の、人の繋がりの醸成が不可欠であると考えます。又、より良い地域を目指す上で行政の執行力も重要であり、地域住民と行政が一体となってより良い地域とする地域自治を目指したいものである。

「久小校区住民協」は行政の動きを正確に各自治会、住民に伝える機能ばかりでは無く、地域の要望・意見を迅速に反映させるべく行政に繋ぎ要望する機能も持ち、また住民相互間が楽しく、活発に交流できる様な、住み易い人の繋がりを促進する様なイベントや仕掛けを企画し度いと考えている。住民協や地域の仲間と果敢に楽しく、住み易い地域を目指して活動して行きたいものである。

校区住民協 事務局長 石井 達郎

## 令和4年11月度役員会

開催日時と場所：2022年11月5日、13時  
30分～15時45分、久木会館多目的B室

参加者：18名(内役員11名)

### 議題

#### (1) 事務局からの報告事項

①食品衛生法の改正(保健所対応)について、配布資料に基づいて、食品衛生法の改正に伴う、模擬店、臨時出店などの届け出の要・不要につき説明があった。住民協としては、「朝市」や「みんなのカフェ」などに関係があるが、届け出は不要であるとの認識の基に、今後もイベントを実施していく事が確認された。また、イベント開催時に不明な事があつたら、市民協働課が保健所対応のサポートをしてくれることが紹介された。

②次回の住民協連絡会にて、「高齢化社会の進行と公共交通機関の対応」「空き家問題」について、市の担当者からの説明・議論が実施されることが報告された。空き家問題についてはハイランドの海野氏が積極的な活動を実施しているので、次回の会議に出席を要請することになった。

#### (2) 審議事項

①拡大版久木朝市(11/13実施予定)について  
・各町会長に配布した「拡大版朝市」及び多世代交流事業「みんなであそぼう」のポスターを、掲示板等に張り出すよう要請された。  
・久小PTAの出店は11店舗、住民協サイドの出店は21店舗となることが報告された。

・開催時間は午前9時～12時、設営の為の協力が必要で、協力可能な者は8時に集合するよう要請された。  
・当日社協と共催する「みんなであそぼう/多世代交流事業」、に住民協各位にはスタッフとして盛り上げるとともに、地区サポーター、各町

内会、自主防組織などにも参加を奨励するよう要請された。

意見：・当日の混乱を避けるためにも、出店のレイアウトを事前に決めておく必要がある。

・出店者がかなり増加しており、今後出店者の確認・整理することが必要である。

・当日、校庭に音楽を流すと、場の盛り上がりには寄与するのではないか。

#### ②「みんなのカフェ」について

「みんなのカフェ」を 10/17 に正式オープンした。開催時間は午前 10 時～午後 3 時半。参加者は 20 名程度、採算は赤字となった。

意見：・落ち着いて座るスペースがない、レイアウトを考える必要がある。

・採算が赤字であるのなら、組織運営費からの補填が必要となるが、許容範囲であるのか、何度か実施してみて、検証する必要がある。

#### ③久木小学校改修工事に向けた座談会の件

配布資料に基づいて辻氏より、2024 年から開始される久小の改修工事に向けて、関係者・地域の声も反映した要請書を作成するために座談会を開催する旨説明された。住民協からは、石井氏、小林氏、細野氏、桑原氏が参加することになった。

④「住民協ひろば特別号第 6 号」内容承認について：配布資料を参考にして、以下の確認・議論があった。

・印刷部数は 5700 部とする。

・1 ページ目の副題の「久木・山の根に根差す新しい世代による街づくり座談会」にハイランドの記述を追加する。

・フォントサイズが小さいとの指摘もあるが、今のまま 9 ポイントとする。

・座談会の司会、取りまとめ役であった桑原氏の名前は、補助金を得ている団体と議員との関係に疑問を抱かれないように、名前は出さないことにする。

・役員一覧の副会長記載順は、会則に基づく順序に修正する。また、龍崎氏の退任に伴い、理事記載欄から削除する。

・広告掲載確認が取れていない「FLAG」については、石井氏より至急確認をとるようにする。

・「合気道久木道場」広告の記載修正要請に対して、修正したデータをもらう方向で調整する。

・「キリガヤ」の広告については、選挙活動と関連があり、掲載無用との申し出があり、要望に従うこととする。（広告料は寄付）

・広告掲載者への掲示内容確認日程は事務局が配慮することになった。

・印刷所へは 14 日に原稿を渡すスケジュールで進める。配布の為に朝日新聞に完成品を持ち込む日時は、事務局が打ち合わせるようになった。

・この特集号をベースに、後日ワークショップを開催したいとの要望が事務局より出された。

#### ⑤その他

a) 急傾斜地対応/県土木依頼アンケートの件  
各町会長に配布した上記アンケートは、可能な範囲で協力すること、また次回役員会時に回収する旨説明された。

b) 「未来につなぐ我が家の終活セミナー」の件  
配布資料に基づいて、行政より、空き家問題に関連するセミナーの紹介があった。

c) 役員動向の件  
事務局より、龍崎氏の理事/会員の退任に付き諮問があり、本役員会にて承認された。

## 《寄稿》 カーボンニュートラルと江戸時代

校区住民協 理事（会計） 鈴木 為之

令和の現代から 2050 年のカーボンニュートラルの時代はどう変わるか。地球上の炭酸ガスをこれ以上増やさないために、化石燃料の使用をやめていること。その結果エネルギーの元は再生可能エネルギー（植物と自然エネルギー）に代わり、炭素からできているモノの量は増えなくなり、再生して使うリサイクルの時代になります。自然エネルギーは無限ですが、それを電力に変えるには制約があり、画期的な新技術の開発がない限り、電力の供給量の不足と高騰は避けられないでしょう。

つまり、エネルギー、モノの両面でカーボンニュートラルの時代は窮屈な時代となります。遡って江戸時代とカーボンニュートラルの時代はどう違うか。

江戸時代のエネルギー源は再生可能エネルギー、モノの素材は植物と鉱物（石と金属）、モノは大切に扱われ再生して使うリサイクルの時代でした。これはカーボンニュートラルの時代と同じです。つまりカーボンニュートラルの新时代は、エネルギー源、モノの素材ともに江戸の昔に帰ることです。

違うのは何か、エネルギーは自然エネルギーをそのままの形で利用していた江戸時代に対して、20世紀以降使い勝手の良い電力に変えて使えるようになったこと。モノの世界では、化学の力で新しい有用な化合物を創り出し、エネルギーを活用して豊産できるようになったことです。

つまりは科学技術の進歩の恩恵で、江戸時代と比べては暮らしやすい時代になりました。

カーボンニュートラルの新時代は、新しい科学技術、特に情報通信技術（ICT）を駆使した江戸時代のリバイバルの時代といえるかもしれません。不足するエネルギーを無駄なく活用していく共同使用（コミュニティ）、モノを大切に扱いリサイクルする社会の仕組み、自然に親しむ日常等、令和の現代の使い捨て・浪費の時代とは違った、江戸の昔に親しみを感じる時代が訪れるのではないかと感じています。

## 《連載》 久木朝市ひろば

### 《崖の下農園》

崖の下農園のご紹介をさせていただきます。久木神社の奥に続く、文字通り崖の下の空き地を地主の方のご厚意で使わせて頂いて野菜を育てている小さな家庭菜園です。

参加しているのは私を含め現在5世帯で、みんな楽しく四季折々の野菜を育てています。肥料は主に、炊いたお米を食べさせているという葉山牛で有名な石井牧場さんの完熟牛糞堆肥を使っています。栄養たっぷりの有機栽培で育てた野菜はどれも本当に美味しく、また実にバラエティー豊かです。

春の二十日大根、春菊、そら豆、初夏のじゃがいも、にんにく、玉ねぎ、ピーツにズッキーニ、盛夏のきゅうり、茄子、ミニトマト、中玉トマト、ピーマン、かぼちゃ、ハラペーニョ、茗荷、秋にはさつまいも、里芋、冬には大根・白菜・蕪、ピーツにじゃがいもにほうれん草・・・

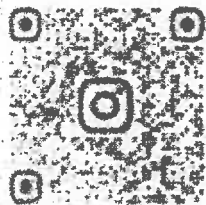
ブログ「海山キッチン」  [海山キッチン](https://twitter.com/umiyamakitchen) | 海山畑から食卓へ ([umiyamakitchen.com](http://umiyamakitchen.com))

### 黒澤 正紀

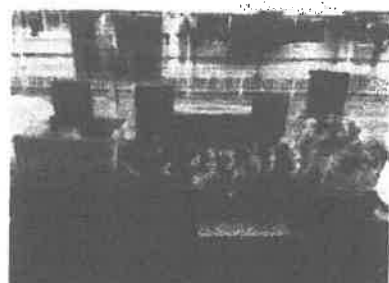
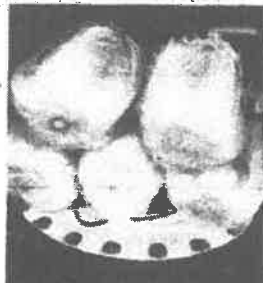
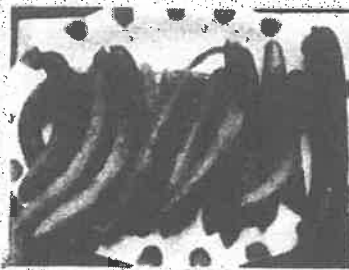
おかげで我が家の食卓はいつでも季節の野菜でいっぱいです。さらに、愛情込めて育てた久木産の地野菜は地域の皆様にも楽しんで頂きたいと、久木朝市（マルシェ）に初回から毎回欠かさず出品させて頂いているほか、菜園の通り沿いに設けた無人販売棚にも時々、野菜を置いてあります。

育てて楽しい、食べて美味しい、そして畑で仕事をしていると通りがかる人に「この前朝市で買ったお野菜とっても美味しかったですよ」なんて、有り難い声を掛けて頂ける、本当に嬉しいことだらけです。地元久木産の新鮮野菜、皆様も是非一度お試しください。

崖の下農園の野菜の様子をブログとインスタグラムでも発信していますので、よかったらご覧ください。



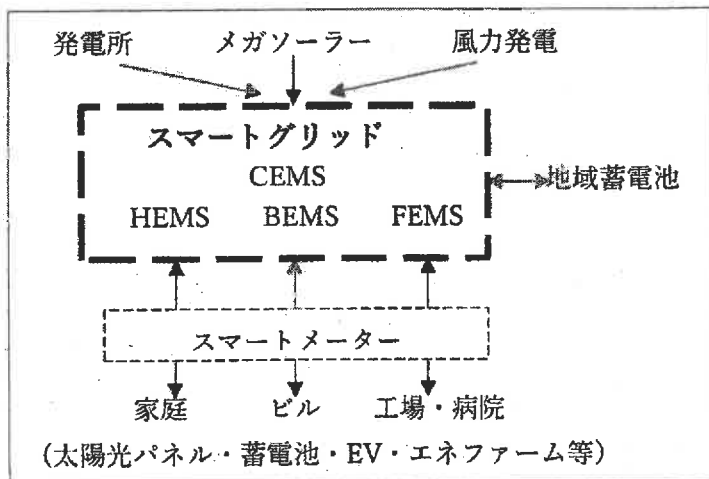
UMIYAMAKITCHEN



## 《レポート》 カーボンニュートラル（続き）

### 15. スマートグリッド：次世代電力網

今、再生可能エネルギーの普及に伴って、次世代の電力網といわれる「スマートグリッド」が大きな注目を集めています。現在の電力は、発電所から一方的に電力が供給される仕組みであるのに対し、スマートグリッドは、送電網に情報通信技術（ICT）を組み込んで、電力の供給側と需要側で双方向に情報を共有し、相互に電力の最適な使用状況を作ろうという仕組みです。



その出発は、アメリカで多発した大規模停電を解消する手段として考えられました。現在は、この技術を再生可能エネルギーが主役となる新時代の電力網として活用しようとしています。再生可能エネルギーは太陽光にしろ風力にしろ自然の影響を受けやすく安定した電力を得ることが困難で、電力の過不足が出ます。火力発電や原子力発電等の安定した（集中型）電源と、再生可能エネルギーの分散型電

源をスマートグリッドの電力網に組み入れて、電力の過不足を解消しようとする試みです。

家庭、ビル、工場の電力の過不足のデータは、新たに設置されたスマートメーターで計測され、情報として、家庭（HEMS）、ビル（BEMS）、工場（FEMS）のエネルギー管理システムに送られます。3つの管理システムのデータはCEMS（Community Energy Management System）で統合されて、地域のエネルギー最適化のデータとなります。発電所ではこのデータをもとにして発電量の調整を行います。

スマートグリッドの導入の効果は、効率的、無駄のない電力の供給と再生可能エネルギーの導入が挙げられます。例えば、家庭で十分な太陽光発電が得られる際は、集中型電源からの供給はなくなり、余剰電力は蓄電されるかあるいは他の家庭の電力に転用されます。また災害時、集中型電源の電力供給が止まった場合は、分散型電源から電力が供給されるため、災害に強いcommunity（地域）が作られます。

スマートグリッドは、その管理システムにcommunityの名がつけられるように、地域単位の新しいシステムとして考えられています。家庭の太陽光発電や地域の廃棄物発電等はシステムの中に取り込まれて、地産地消のエネルギーとして使われます。更にシステムの情報通信技術（ICT）により、生活の利便性の高いスマートシティ構成につながっていきます。（次回は、14. バイオマスと廃棄物、を予定） 鈴木 為之（山の根在住）

### 編集後記

11月12日（土）に久木小学校（以下久小）改築に当たって、久小PTAが主催しどのような学校であって欲しいかを議論する座談会が開かれた。参加者は、現在就学児童の親、未就学だが久小に入学を考えている親、久木小学校区地域の住民等多様な人々が30名程集まり熱い議論が展開された。様々な意見が出る中で「開かれた学校であって欲しい」という意見が多かった様に思う。従来の学校は文科省指導要綱のもと、学問を学ぶ事が中心であり、それは勿論学校の核として重要な事には違いないが、それに加えて例えば地域の様々な人材との交流、地域の人材の宝庫を先生とする学びの場が出来ればどれ程素晴らしい事であろうか。学校の授業だけでは違和感を感じ不登校となる児童も少なくないと聞く。例えば地域の人材との交流で、新たな居場所や興味を繋ぐ空間が学校に出来たらどんなに素晴らしいかと夢想してしまう。今回の座談会を企画した久小PTAの熱意に敬意を表する。

事務局長 石井 達郎